

【青年会議所という場所で、自分事という器を磨く】

2015 年 4 月、私は生活の変化に対する若干の不安を抱えながら、新しい出会いと自己成長の場としての期待を持って武生青年会議所に入会をしました。しかし入会したからすぐに自身の何かが変わるわけではなく、しばらくは社会の出来事も対岸の火事であり、月日が経ち青年会議所運動の理解ができてても周りの出来事は他山の石として捉え、何の行動にも移さない自分がいました。もし自分の周りにジブンゴトという円が存在するのであれば当時の私にはその円の半径はあまりにも小さく、その中には限られた仲間しか入れていなかったのだと思います。そんな私にとって青年会議所は社会の知識や見識を養うだけではなく、胆識を身に付けるステージでもあり、いつからか身近な人達だけではなくまだ見ぬ人達のためにも自分事として考え、動き出すようになっていました。

「我々の運動は誰の涙を拭い、誰の笑顔を支えているか」

各地域の課題に対して全国の青年会議所がその解決に向けて起こす運動の先には、誰の顔が浮かんでいるのでしょうか。自分でしょうか、家族や社員や友人でしょうか、はたまた近所の名前も知らない子供でしょうか。混沌とした社会情勢の中、この地域に希望をもたらすための起点となるには、綺麗な文章で書かれている机上の計画書ではなく、真の笑顔をもたらす地域課題の解決に向けた行動力です。JAYCEE としてこの地域の明るい豊かな社会を実現する礎になると信じて、私達は大切な人達のために覚悟を持って前へ進むしかない。その道はすぐ前にひらけているのです。

【希望あふれるリーダーと地域が共創し、変えたのだと誇れる福井の実現】

福井県は生産人口年齢の低下や人口減少などの課題を抱えていますが、住みやすさ、就業、教育等において全国的にも幸福度がトップクラスであり、各々の地域では海外からも認められる地域資源が多数ある等、地域やひとをいかす方法が数多く存在しています。福井ブロック内 10LOM と活動エリアである地域、また LOM 同士が課題の解決を図る連携を強固にすることにより、活力があふれる持続可能な地域となり、複雑多様化する課題やニーズへの対応について青年会議所のリーダーが共通の理念を持って、産官学民、連携を図り共創できる地域の未来を創造します。現在青年会議所は全国的にも会員数の減少と在籍年数の短期化により社会により良い変化をもたらす力を身につける機会が少なくなっている中、社会と地域の発展を担うメンバーが、LOM と地域へ希望をもたらす変革の起点となるリーダーとなるために、研修やブロックアカデミーを通して人財の育成に取り組みます。発展と成長、そして新たな出会いの機会を創出し、JC の価値の理解、浸透を推進するとともに、自ら課題を見つけ、解決していく能力を醸成し、次代の LOM と地域を持続的な発展へと導く人財を育成します。笑顔溢れる福井の未来を残していくため、ブロック協議会として県内各地青年会議所と日本青年会議所、北陸信越地区協議会を繋ぎ、青年会議所運動の推進に寄与する連絡調整機関としての役割をもって、広域的に福井県全体の課題を捉えそのスケールメリットを活かした運動をダイナミックに展開していきます。

「地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究」

天然資源に乏しい日本は、高度成長期から様々な分野で技術力を高め、多くの製品を世界に輸出してきた歴史があります。各地域においても、それぞれの歴史、文化、伝統、また日本独特の地理や気候といった要素を背景としたオリジナリティのある製品やサービスが多くあります。広く知られていないその魅力を調査、発掘し、福井の新しい資源として次年度の各地青年会議所の事業を通して県外に発信できる魅力の発掘を行います。

「環境と経済発展に向けたカーボンニュートラル運動の推進」

福井県は電子部品や伝統品等幅広い産業、業種で構成されたものづくりのまちであり、その中小零細企業の多くは脱炭素経営に対する意識が低く、付加価値を生み出すために環境に大きな負荷を与えています。昨今ではサプライチェーン全体のカーボンニュートラル化が進む中で、県内中小企業が取引停止されるといったリスクが、競争力の低下や地域産業の衰退に繋がるリスクがあります。福井県内の中小、零細企業のカーボンニュートラルに対する意識改革を促し、脱炭素化に取り組む企業の増進を目指します。

「各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究」

全国各地で展開されている質の高い運動を知り、部分最適ではなく全体最適として各々の地域で運動を展開できるよう、福井県内 10 青年会議所の地域課題に対するこれまでの運動についてヒアリングを行い、有益な事業については福井ブロック内、また Gian Pocket への登録等日本 JC に報告を行い、同時に日本各地で実施された有益な事業についても調査を進め、運動とその成果、地域に与えた影響を調査します。メンバー及び福井県民に地域の課題と成功事例を基にした福井の未来を示し、当事者意識の醸成と行動意欲を高める事業を行います。

「誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援」

福井ブロック内 10 青年会議所が共通の価値観を基に運動を推進し、地域にインパクトをもたらすために、全メンバーを対象とした JC プログラムセミナーを実施することで、より多くの地域社会を巻き込むリーダーを創出します。JCI Achieve や JCI Impact といった青年会議所の理念や目的を理解することはもちろん、メンバーの在籍年数に応じたカリキュラムを実施することで、より受講者と青年会議所のニーズ、地域の課題に沿った人材育成から組織力の強化を目的とした事業を行います。

「福井ブロックアカデミー事業の実施」

福井ブロックの青年会議所メンバーの内、約 4 割が入会 3 年未満の経歴となっており、独自のアカデミー制度がない LOM のアカデミー生が JC の組織や運動の本質を理解する機会が損なわれている現状があります。入会後早い段階で、JC の理念の共有と人材育成を行うことが、メンバーの資質の向上のみならず今後の質の高い運動の構築、運動を支える運営の強化、LOM の発展に繋がると考え、JC の理念と個人の理念の共感を進め、組織強化に向けたメンバーの資質向上を目的とした新入会員オリエンテーション事業を福井県勝山市にて行います。理念共感を含め、共通の価値観を基に運動を加速させる各種プログラムを取り入れ

るとともに、アカデミー生の交流の機会、チームビルディング等を通して福井ブロック内のメンバー同士の繋がりを創出します。

「ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用」

福井ブロックの青年会議所メンバーの内、約 4 割が入会 3 年未満となっている現状で、独自のアカデミー制度がない青年会議所のアカデミー生が組織や運動の本質を理解するために、理念共感を含めた学びやアカデミー生の交流の機会である新入会員オリエンテーションの他、各エリア担当副会頭によるセミナーを開催する JAYCEE 育成カリキュラムを取り入れ、アカデミー生については当事者意識の向上を、中堅以上のメンバーについてはアカデミー生の当事者意識を高めるための指導者資質向上を目的とした事業を行います。

「福井ブロック大会の実施」

福井ブロック最大の運動発信の場であるブロック大会は、開催地を毎年変えながら、主催益、主管益、参加者益、地域益を定め実施しています。それら 4 つの益を踏まえ、今年のブロック協議会の事業の成果と今後の地域活性化に繋がる運動の推進、またメンバーの当事者意識の醸成を行うため、鯖江 JC を主管とし福井ブロック協議会 10LOM のメンバーが一同に集う福井ブロック大会を実施します。

「理念共感拡大グランドデザインの検証」

理念共感拡大グランドデザイン 5 年計画の最終年度となる本年、理念浸透率の現状と効果、さらなる浸透への検証として、理念共感サーベイを活用し青年会議所の実情を調査します。そのデータに基に浸透率と組織への影響を効果測定し、各地青年会議所の共通課題である理念の浸透という課題を解決し、能動的な人財育成と指導者能力開発及び社会開発としての組織のブランディングに繋がります。

「災害協定ネットワーク連携の強化・管理」

日本においては数十年に一度という規模の大災害が頻繁に発生し、福井県内においても豪雨被害、豪雪被害等が珍しくありません。県内を震源地とする大地震災害は近年ありませんが、だからこそ防災意識を弱めることなく、災害発生の際には県内で連携を取れる私たち JC メンバーが率先して動き出し復旧対応を進められるよう、各 LOM の連携強化を図る必要があります。災害に対する連携力の向上及び災害発生時に即応できる体制の強化を目的とし、年間を通して災害情報の共有スキームの迅速化及び災害発生時の即動力向上のための組織体制の構築、発信、また福井県内 10 青年会議所と災害ネットワーク連携締結を行います。

「第一回ブロック全体会議の実施」

福井ブロック協議会という組織が県内のメンバーにとって近い存在かといえ、役員や出向者以外のメンバーにとってそうではないと感じているメンバーは少なくありません。メンバーにとっても成長の機会を掴める場であり、LOM にとっても支援を通してより良い組織へと昇華できる機会を多く持っています。また今年の福井ブロックが何のために、誰のためにという思いを持ってどのような運動を進めていくのかを全体を通して発信できる場であり、一年の早い段階で福井ブロック協議会への理解と共感を進めるため第一回福井ブロッ

ク全体会議を実施します。

「第二回ブロック全体会議の実施」

各 LOM が実施する運動やそれに伴う事業のノウハウには、メンバー個人が所属する LOM だけではなく、多くの LOM から学べるものがあります。また日本 JC や北陸信越地区、福井ブロックの運動、事業でも同じことが言えます。本年度と次年度が重なるこの時期に 2025 年度に実施された運動、事業、または組織運営において共有することで、2026 年度により良い福井ブロックを引き継ぐため第二回福井ブロック全体会議を実施します。

【結びに】

青年会議所は「奉仕・修練・友情」という三つの信条の下、年齢、性別、経験が異なる会員が集い多様な価値観に溢れています。多様性を謳う時代だからこそ、その価値観の選択が組織としてのコンプライアンスに関わることも多くあります。組織で学べる運動の「やり方」も、運営という組織の「作り方」「動かし方」も時流によって変化を受け入れないと時代にも人にも置いていかれるのは言うまでもありません。しかし青年会議所で学べるひととしての「在り方」は時代によらず私達青年世代がどのような組織よりも誇れる価値観ではないかと思っています。そしてその在り方は常に自身の行動が伴います。私達が住み暮らすこの福井で志をともにする素晴らしい仲間と一緒に行動を起こしていきましょう。2025 年度、多くの方々に必要とされる福井ブロック協議会を皆さんと一緒に作り上げて行くとともに、一年間全力で突き進むことをお誓い申し上げます。